日本統計学会第33回大会

日本統計学会第33回大会は，昭和40年7月17・18日の2日間，富山大学経済学部において開催されたが，その研究発表会の概況をしるすと次のとおりである。

第1日目に行なわれた本年度の共通テーマは「経済に於ける統計分析の再吟味」で，下掲の4題の報告が行なわれ，それについて討論がなされた。中心論点は，経済分析に適合した統計的手法の探索におかれたが，結論をうるに至らず，来年度の課題として持ち越されることになった。

渡辺　竜雄（通 産 省）：鉄鋼業の景気指標について——経済統計のアプリケーションに伴う若干の問題提言——

鈴木　光男（東京工大）：経済時系列の Spectrum 分析

辻村江太郎（慶 応 大）：多変数単一均衡方程式の推定について

上野　裕也（名古屋大）：経済モデルの構造推定について

第2日目の一般テーマの報告は，午前・午後，それぞれ三つの会場に分かれて行なわれたが，特に人口に関係の深い六つの報告は，午前中第1会場において発表された。本研究所からは，上田正夫（人口移動部長）の「メガロポリス画定の人口学的規準」と岡崎陽一（人口政策部主任研究官）の「労働力の移動と産業構造の変化」の2題が報告された。その他の人口に関する報告は下掲のとおりであるが，いずれも重要な問題点を含む報告であった。

鈴木　啓祐（日通総研）：わが国地域的産業別人口の変動要因についての統計的解析

西川俊作・沓掛　暁（慶応大）：労働移動の計量分析

川上　理一（公衆衛院）：初婚時夫婦の年令相関表について

米沢　治文（東 北 大）：地域コンティギュイティーの計測

（岡崎陽一記）

第2回世界人口会議

1965年8月30日から9月10日まで12日間にわたり，ユーゴスラビアの首都ベオグラードにおいて国連とユーゴスラビア政府主催の下に第2回世界人口会議（The Second World Population Conference）が開催された。1954年ローマで開催された第1回世界人口会議から11年目に当たる。今回の会議の特色は，人口問題の科学的討議を目的とし，参加者は個人の資格において討議に参加し，会議はなんらの決議も勧告も行なわないという点にあった。

正式に登録された参加者数は850名に上り，国別にみると89か国に達した。日本からは15名の専門家が参加したが，人口問題研究所からも舘　稔（所長），黒田俊夫（人口移動部移動科長），岡崎陽一（人口政策部主任研究官），河野稠果（人口移動部移動科）の各技官計4名が参加した。会議の内容からみた特徴は，従来国連においていわばタブー視されていた家族計画ないし人口政策が議題の中に正式に取り入れられたことと，アフリカ諸国からの参加が実現し，地域的にみても名実ともに世界人口会議にふさわしいものとなったことである。

会議の議題は総会的な性格をもったAと，より詳細な討議を目的としたBの2種類に分けられた。Aは12，Bは13に分かれている。その詳細は次のとおりである。